

断腸の剣 (十四卷)

帝キネ

時代映畫

原作者 木村紫詩郎

監督者 佐藤樹一路

撮影者 高橋武則

主演者 松本田三郎

紹介 第三百一十一號

仇討物を幕末物に組合せた點が此の作品のテ  
 ーマの長きであるが、併し是すら決して成功  
 したテーマと云へない。新撰組と云ふ當時の  
 フラスチズムに幾分人間らしい色彩を加へた近  
 藤勇が現はれて来る。主人公は單に仇討のみに  
 關與して流れて行く時流にふれ様もして居な  
 い。とすれば此の際吾々の興味と幾分の好感は  
 主人公よりも却つて近藤勇に浸はれたかたちで  
 ある。可憐な女が出る。詠へ向きに女巡禮で助  
 けられ都に來て藝妓になり主人公と逢つて戀心  
 を覚える。が主人公には故郷に許婚があつて其  
 れが訪れて来る。仇討で、小父や義弟が危い際  
 に此の二人の女は主人公を中にして女らしい嫉  
 妬に似た眼のやりを冗漫にする。これも困  
 つた監督手法だ。仇が新撰組に居て、それが又  
 芹澤鴨といふ男の義弟、そして鴨の横戀慕で藝  
 妓になつた一人の女はふみにじられる。戀と仇  
 みの二重の憎悪であるが餘りに作り過ぎて人間  
 が生彩を放たないのも遺憾である。が藝妓にな  
 つた女が母の病氣を治す薬料工面の爲に鴨の暴  
 力に服従する邊、その後の表現は仲々効果的であ  
 つた。亂闘場面など、もつさカメラを速やかに  
 動かしてはしかつた。田三郎君は主人公の性  
 格は出て居たが氣概が足りなかつた。餘りに憂  
 鬱過ぎてゐた様。後半に至つて久野君は一段と  
 よく演つて居た。明石君の近藤勇は從演として  
 格段の味がある。全篇に通じて其の常識的で作  
 る爲めに作られた事件を十四卷にもしたのは甚  
 だ失敗だつたと思ふ。(寫真版紹介)

興行價値——是だけの顔觸れ、是れだけの長尺  
 だから呼物以外にはならない。が併し冗漫に過  
 ぎてゐるので見るのが根氣ものだ。  
 (十一月廿四日 大阪青達劇場、神戸相生座)